

シリーズ 3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン①

職藝学院

教授 渡邊美保子

トリトマ

バーベナ・ボナリエンス

庭園で楽しむことのできる宿根草には、様々な種類があります。開花期間、花色、葉色、質感、草丈等を計算し、生態にもとづいて組み合わせると、生きた絵画のようにデザインすることができます。花壇の手前から奥に向かって草丈が高くなるような種類を植えて、隣り合う宿根草の開花を少しずつ重なるように組み合わせると、季節感のある花壇を楽しむことができます（写真1）。



(写真1)
グリーンキーパー実習花壇 2008年6月中旬
宿根草と一年草の組み合わせ

5月中旬から咲き始める3種の宿根草の組み合わせをご紹介します（写真2）。写真は、一番奥から順に、バーベナ・ボナリエンス（紫色）、トリトマの品種ロイヤルスタンダード（橙/黄色）、ガウラ（矮性種、桃色）の5月中旬の様子です。いずれも日当たりを好み乾燥にも耐え、有機質中心の土に植えると肥料をほとんど必要としません。この組み合わせで一番早く咲き始めるのは、トリトマです。5月初旬、放射状に広がるたくさんの細長い葉の中から、大仏様の頭のようなつぼみの集団が現れます。これをぜひご覧いただきたい。私は毎年見落とします。なぜなら、気がつくと花茎はあっという間に30cmほど伸びています。（一晩で！）その生長スピードはタケノコのごとく、つぼみは、あっという間にオレンジと黄色に染まっています。トリトマの根は硬い粘土質の土壌でも突き抜けていくほど丈夫です。追肥は絶対してはいけません！すればするほど葉の幅が広くなり全体が

巨大化してゆきます。なぜか園芸コースの学生の意見は二つに分かれます。「アートですね」と、うっとりする人。「怖いです」と、目をそらす人。私にはその両方の気持ちがよくわかります。

さて、太めの茎を持つトリトマとは対象的に細身の花枝をトリトマと競い合うように伸ばしているのは、バーベナ・ボナリエンスです。3尺バーベナとも呼ばれています。肥料をあげすぎると名前以上に伸びて暴れてしまいますので気をつけましょう。てっぺんの花が咲き終わり黒っぽくなってまいりましたら、花がらのついた茎を下にたどってゆくと節がありますのでその節の上で切り戻します。すると、節から脇芽が向かいあって2本伸びてきて再び花を咲かせます。9月末ごろまでこの作業を繰り返すことにより11月初めまで花を楽しむことができます。

バーベナとトリトマの手前で、ピンクの噴水のような姿で咲いているのは矮性のガウラです。あまり大きくならないので鉢植えで楽しむことも出来ます。ガウラの別名はハクチョウソウとも言われていて、小花ひとつひとつは、まるで白鳥が羽をひろげたような形をしています。しなやかな細い枝が風にゆれると、隣の宿根草をなでるようにやさしい色に染まります。咲き終わった花が付いた花茎を途中から切り戻しますと、脇芽が伸びて再び開花し、夏の終わりで楽しめま



(写真2)
グリーンキーパー実習花壇 2008年5月中旬
奥から、バーベナ・ボナリエンス、
トリトマの品種ロイヤルスタンダード、ガウラ（矮性）